

「你中有我 我中有你」 中国経済新聞 080301 掲載

直訳すると「君の中に我あり、私の中に君あり」となるけれども、これではあまりにも味気ないと、ある人が「Aの中にBがあり、Bの中にAもある」と訳した。

これまでは文学作品での熱愛カップルの例えや合成写真の手法などで使われていたのだが、一昨年来日した薄熙来商務部長（当時）が、中日両国の経済関係が如何に緊密化しているか述べた際に、この例えを使った。

専門家の解説によれば、両国経済は今や互いに深くビルトインされ、相互依存・相互補完が定着し、離れようとしても離れられないステークホルダー関係を形成している、というので、一口で言えば密接不可分、一体化と融合のことである。

中国語の成語では「唇齒相依」「唇亡齒寒」がいずれも相互依存・利害共通の例えとして、三国志などに出ている。「你中有我、我中有你」は、これら成語の現代版、卑近な表現ともいえようか。

三年前に中国でいわゆる「反日デモ」が起きたとき、少なからぬ若者が「日貨（日本商品）ボイコット」というスローガンを掲げたが、これを識者がたしなめた際に、やはり「你中有我、我中有你」を使った。

何十年も前の日中戦争の時期に「日貨ボイコット」を提唱したのは正しかったけれども、時代は変わった。今では中国のさまざまな製品に日本製の材料や部品が使われており、中国で販売される日本商品の多くは中国に進出した日本企業で、中国人従業員により作られている。まさに「你中有我、我中有你」で、互いに組み込まれているのだ。若者たちは「はじめて知った。考えが到らなかった」とすぐ反応した。

日本についても同様のことがいえる。百元ショップの商品は大半が中国製だし、世界から輸入されるアパレルの八割に「Made in China」の札がついている。スーパーの食品、秋葉原の電器……筆者が言いたいのはモノのことだけではない。

日中貿易額は昨年、初めて日米貿易額を抜き国別でトップに立ったが、その実に七割以上が外資系企業、つまり中国に進出した外国企業（大半はもちろん日本企業）によるものなのだ。数年前に中国からタオル輸入が急増して問題にされたが、あの大半は日本のタオルメーカーが中国で生産したものだった。

ことほど左様に「你中有我、我中有你」であって、日本の景気回復もかなりの程度は中国経済の活気に支えられており、新聞が「中国特需」と書くのもむべなるかな、である。

ところで、この「你中有我、我中有你」の適切な訳語が見つからなくて困っている。友人に「合わせ鏡」ではどうか、と助言されたが、若い世代がすぐ理解してくれるだろうか。

どなたか、名訳を教えていただければ幸甚である。